

学習の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準

(必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位)

～令和5年度入学者適応～

◆身延山大学のコンピテンシー【特色のある教育プログラム】

一般的な定義では、高い仕事力を維持している社会人に共通して見られる行動特性のことです。高い能力を有する社会人の思考や行動を分析して、その能力を身につけることで、社会的に求められる人材となることを大学教育の中に落とし込み、学生にとって求められる能力の獲得に結びつけてゆくための指針（コンピテンシー）と、その指針に基づいた教育内容の展開を意味します。

身延山大学のコンピテンシーは、7種別21項目として表しています。

種別	項目	種別	項目
人間力 (生涯学習力)	多様な学問の考え方	表現力	文章表現力
	健康力		口頭表現力
	地域理解	思考力	批判的思考力
	異文化理解		論理的思考力
	外国語リテラシー		課題設定力
知識活用能力 (情報リテラシー)	情報収集力	課題探求力	構想力
	情報分析力		計画力
	情報構成力	課題解決力	実行力
コミュニケーション力	読解力		評価力
	傾聴力		改善力
	会話力		

◆ 授業科目

授業科目には、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」があります。必修科目は必ず修得しなければならない科目、選択必修科目は定められた科目の中から選択して必ず修得しなければならない科目のことです。必修科目と選択必修科目から定められた単位を修得しなければ、規定の総単位（124単位）に達していても、卒業ができません。

◆ 単 位

授業科目には学習内容に応じて単位が定められ、授業に出席し、試験等に合格した者に対し単位が与えられます。『大学設置基準』では、「単位」について次のように定められています。

第21条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

2 前項の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもってこれを1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

1年間の授業時間

第22条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

◆ 授業形態について

本学の授業形態は「対面授業」と「遠隔授業」があります。多くの科目は「対面授業」で行われますが、「遠隔授業」で行う科目、「対面授業」と「遠隔授業」を併用する科目もあります。通常は「対面授業」で行われますが、諸事情により急遽「遠隔授業」に変更となる場合もあります。また、年度途中で全面的に対面・遠隔のいずれか、あるいは全く異なる授業形式に移行することも考えられます。なお、変更が生じる場合、Gmail でお知らせします。

1 「対面授業」について

基本的に教室において教員が対面により、学生に対して「講義」「教育研究指導」「実験・実習」等を行う授業です。(小中高と同じ授業形式です。)

2 「遠隔授業」について

インターネットに接続したデバイスを利用して行う授業です。

3 本学での「遠隔授業」について

(1) 同時双方向型(リアルタイム配信、ライブ配信)授業

ビデオ会議システム等を利用し、基本的には時間割の開講時限にあわせて授業を行います。教員と学生がオンライン上で集まり、映像と音声、資料を共有しながら、対面授業と同じ形式で授業が進められます。教員と学生が、互いに映像・音声等によるやり取りを行い、質疑応答の機会が確保されます。

(2) オンデマンド授業

同時双方向ではなく、授業動画、音声付きのパワーポイントなどを視聴し、または、提示された資料や教科書をもとに教員の指示に従って課題を提出する授業です。授業毎に設問・解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を行い、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会が確保されます。

(3) ハイフレックス形式授業(同時双方向型と対面授業形式の併用)

時間割に記載された時限に、同時双方向型(リアルタイム配信)と教室での対面授業で開講されます。学生さんはPC又はタブレットで、ネット接続が可能な所でしたらどこでも受講ができます。また、教室においても対面授業形式で受講できます。

4 「遠隔授業」受講のルール(「対面授業」でも適応)

次のルールを遵守した上で、遠隔授業を受講してください。なお、このルールは対面授業でも適用されます。

(1) 遠隔授業を妨害する行為をしてはいけません。(遠隔授業等に対する不正なアクセスや不適切な行為等も含まれます。)

(2) 遠隔授業や配布資料へのアクセスのために与えられたURL、ID及びパスワード等を他者に教えるてはいけません。

(3) 配布されたファイル(音声・動画・画像)、教材、資料等を他者に送付する。または、SNSや掲示板等インターネット上にアップロードしてはいけません。

(4) 許可なく担当教員や受講者の動画・画像や音声を取得し、SNSや掲示板等インターネット上にアップロードしてはいけません。

(5) 受講者の氏名、学籍番号等の個人情報をSNSや掲示板等インターネット上にアップロードしたり、外部に漏洩及び公表してはいけません。

(6) 担当教員や受講者について、SNSや掲示板等で誹謗中傷や、誤った情報を発信してはいけません。

(7) 「遠隔授業」では、自分からの発信が他の受講者にも見られていることを十分に認識し、自分の個人情報の管理にも気をつけてください。自分の画像・音声は他の受講者にも見られていることに留意してください。

(8) 「遠隔授業」においても、「身延山大学学則第46条」に定める本学学生の本分に反する行為を行ってはいけません。

(9) (7)を除く上記のことを守られなかった場合には、本学が付与するアカウント等を停止することがあります。また、本学学則により懲戒処分の対象となり、法律に基づく処分を受けることもあります。

◆ 講義科目のナンバリング制度

令和3年度から本学では、授業内容や履修年次等に応じた、講義科目のナンバリング制度を設けました。ナンバリングは、開設科目に科目の位置づけや授業の難易度など適切な番号を付け、教育課程の体系的がわかるようにする仕組みです。学問体系などを知らないままやみくもに授業科目を選んでも、その学問領域や知識が身につけられるわけではありません。授業科目に記号と番号を振り、授業の難易度・性格、位置づけ、履修順を明確にすることによって、学生はどの科目から履修していけばよいかを理解し、履修する授業がいかなる位置にあり、どのような目的で履修するのかを把握することができます。ナンバリングはシラバスに記入してあります。

1 ナンバリングの構成内容 (全6英数字)

大分野	分野	難易度 (D)	通し番号
英字1文字	英字2文字	数字1文字	数字2文字

*留意事項 令和3年度科目の「通し番号」は奇数のみです。

2 分野と略号表 (付与はすべて小文字)

分野名	大分野略号	分野略号	分野名	大分野略号	分野略号	
人文・社会科学系科目	l (教養)	l s	キャリア系科目	s (特別)	ca	
自然科学系・総合領域科目		s m	卒業論文科目		ゼミナール科目	se
						st
地域教養科目		c l	学芸員科目	c (資格)	mc	
情報科目		si	社会教育主事科目		se	
保健体育科目		ma	社会福祉主事科目		sw	
語学科目		l c	教職科目		fs	
専門基礎科目	m (専門)	mb	日本語科目	j	j i	
日蓮学系科目		n b				
仏教学系科目		bs				
仏教実践系科目		bp				
仏教芸術系科目		ba				
宗教学系科目		t h				
博物館系科目		mu				
福祉理論系科目		w t				
福祉技術系科目		ws				

3 科目難易度 (Difficulty) 項目について

D (難易度)	D (難易度) の考え方	履修年次の目安
0	認定科目などの非評価科目	GPA 除外科目 (点数評価に該当しない科目)
1	大学生が知っておくべき基礎・基本に該当する難度	1年次履修推奨科目 1~4年次履修推奨科目
2	1よりも難しいが基礎・基本の範疇に該当する難度	2年次履修推奨科目
3	専門課程に必須な知識や技能を身につける難度	2・3・4年次履修推奨科目 (含: 2・3年次履修科目)
4	専門課程の応用力を養う難度	3・4年次履修推奨科目

5	専門課程の発展的な力を養う難度	4年次履修推奨科目
6	大学生の学修の集大成となる難度	卒業論文

4 表記例

①科目名 日蓮教団史 ナンバリング mnb201

大分野	分野	難易度 (D)	通し番号
専門科目	日蓮学系科目	2	01から
m	nb	2	01 (仮)

②科目名 音楽療法 ナンバリング mba321

大分野	分野	難易度 (D)	通し番号
専門科目	仏教芸術系科目	3	01から
m	ba	3	21 (仮)

③科目名 ソーシャルワーク実習Ⅱ ナンバリング mws421

大分野	分野	難易度 (D)	通し番号
専門科目	福祉技術系科目	4	01から
m	Ws	4	21 (仮)

◆ 時間割

学期は、前期・後期とし、各学期は原則として15週とします。毎日の講義時間は1時限（1コマ）90分を原則として、下表の通り、5時限（5コマ）に区切って授業を行います。

時間割	
時 限	授業時間
第1時限	8:50～10:20
第2時限	10:25～11:55
昼休み	11:55～12:25
第3時限	12:25～13:55
第4時限	14:00～15:30
第5時限	15:35～17:05

◆ ガイダンス

ガイダンスでは、新しい学年のはじめに、各科目を受講するための履修方法・登録及び大学生活を送る上での必要事項についての説明がなされます。下記のガイダンスがありますので必ず出席し、確認するようにして下さい。

- ・在校生ガイダンス 在校生（2・3・4年生）を対象としたガイダンス
- ・新生オリエンテーション 新生（1年生・編入生）を対象としたオリエンテーション
- ・諸資格ガイダンス 諸資格課程履修者を対象としたガイダンス
(在校生 在校生ガイダンス時 新生・編入生 新生オリエンテーション時)
- ・個別履修相談 全学年を対象とした履修方法の個別相談（4月初旬から中旬 大学事務局）

◆ アカデミック・アドバイザー制度

アカデミック・アドバイザーは「学業上の助言者」という意味ですが、本学では担当教員が、学生一人ひとりに対し、入学から卒業まで学習全般や学生生活の指導、助言及び相談を行い、効果的な学習を支援します。いわゆる担任の先生の役割をします。気軽に相談してください。

【アカデミック・アドバイザーの役割】

(1) 履修登録に関する指導

履修登録については、学生本人の希望を優先しますが、修得単位や就職希望等を勘案し出来るだけ高い学習効果が得られるよう指導・助言を行います。

(2) 学習に関する指導

履修登録に関する指導や、学習に関する指導・助言を行います。履修登録終了後も学生の学習状況を確認し、学習面のアドバイスをを行います。

(3) 成績不振学生に対する指導

当該学期の修得単位数が10単位以下の学生や、GPAが1.5未満の学生に対し、個別に指導を行います。

(4) 学生生活の指導、助言及び相談

入学したばかりの1年生や編入生の皆さんは勉学上の悩みだけではなく、生活上の悩みに直面するかも知れません。大学生活になじめない、健康がすぐれない、気分が落ち込む、セクシュアルハラスメントの被害にあう、経済上の問題等があります。こうした悩みについてもアカデミック・アドバイザーは相談に乗ってくれる頼もしい存在です。

◆ 履修上の規定

科目を履修するためには、前期は、前期履修登録締切日（年間行事予定表参照）までに、後期は、後期履修登録締切日（年間行事予定表参照）までに、各自が履修登録をしなければなりません。履修登録を行わなければ、試験を受けても単位取得が認められません。

履修登録をするためには、所定の期日までに、『履修カード』を担当教員に、『履修届』を大学事務局に提出しなければなりません。『履修カード』に記入した科目と『履修届』に記入した科目が同じ場合のみ、履修登録が完了となります。『履修カード』、『履修届』に、不明瞭に記された科目については、その登録が無効となりますので注意して下さい。

『履修カード』 …前期・後期の学期当初に、大学事務局にて配布します。講義コード・講義名・担当教員名等を記入し、前期・後期の第一回講義時に提出します。

『履修届』 …前期・後期の学期当初に、大学事務局にて配布します。履修科目・講義コード・講義名・担当教員名等を記入し、大学事務局に提出して下さい。

同時限に重複する科目を登録したり、年次指定を間違えたりしないように注意して下さい。

◆ 履修登録後の注意

- 1 履修登録後は、登録された科目以外は履修が認められません。
- 2 履修変更（登録変更）は、年間行事予定表を参照し、履修登録変更届期限内に行ってください。それ以外の履修変更は、一切認められません。

◆ 年間制限単位数

1 変動型CAP制度の導入について

本学では学生が学力に応じた十分な学修時間を確保するために、履修登録可能な単位数の上限を、学期ごとの成績（GPA）により上下する制度（変動型CAP制度）を採用しています。

変動型CAP制度とは、前学期のGPAにより、下表に示す履修上限単位数が4段階に変動する制度のことです。この制度を導入する背景には、1，2年次の学生が単位を多く履修して、予習・復習も不十分なまま授業に臨み、どの科目も理解不十分になり、途中で履修を放棄する事例が多く見られ

たからです。そこで本学ではG P Aを基にして、履修可能な単位数の上限（C A P制）を設定することで、学生自身が自らの成績状況を理解し、学修内容に応じて学修時間を確保し、能動的に関わってゆけるように本制度の導入を行っています。

2 成績優秀学生の履修年次を越えた科目の履修について

変動型C A P制度により前学期のG P AがS又はAランクの成績が優秀な学生は、履修可能単位数内であれば履修希望科目の履修年次に関係なく履修が可能です。その際にはアカデミック・アドバイザーと相談の上、次の事項に留意の上、履修する科目を決めてください。

- (1) 副専攻の履修も考慮してください。
- (2) 特に低学年次に、開講科目のナンバリング及びカリキュラムツリーにおいて難易度が高い科目を履修する際には、十分留意してください。(科目難易度 (Difficulty) 項目を参照してください。)
- (3) 低学年次には資格取得も視野に入れた履修を考慮してください。

3 変動型C A P制度 (履修制限)

ランク	前学期のG P A	履修可能単位数
Sランク	3.5 以上	28
Aランク	2.5 以上 3.5 未満	26
Bランク	1.5 以上 2.5 未満	24 (基準値)
Cランク	1.5 未満 (履修支援対象者)	18

- (1) 新生 (1年生・編入生)・休学生や病欠等々のやむを得ない事由により、その学期のすべての授業科目を履修できなかった場合、次学期の上限単位数はG P Aと関係なく基準値の24単位となります。
- (2) 長期履修生の履修できる単位の上限は前期18単位・後期18単位です。ただし、資格取得のための単位数については制限がありません。また、卒業論文についても上限数に加えて履修できます。

4 本学の最低履修単位数について

学年	学期	履修可能単位数	最低履修単位数	資格取得のための単位数
第1学年	前期	前学期のG P Aにより各自異なります。 基準値は24単位となります。	指定しません。	制限なし
	後期			
第2学年	前期			
	後期			
第3学年	前期			
	後期			
第4学年	前期	8単位 (卒業論文を含む)		
	後期	※後期に履修可能単位数以外に卒業論文(8単位)を履修することも可能です。		
合計			124単位	
卒業基準単位		124単位	124単位	

5 履修上の学生支援について

- (1) G P AがCランクの場合、アカデミック・アドバイザー及び担当職員による履修支援が行われます。(上記のG P Aの数値に関わらず履修支援が必要と判断した学生も、アカデミック・アドバイザー及び担当職員による履修支援が行われます。)
- (2) 2学期連続してG P AがCランクの場合、アカデミック・アドバイザー、担当職員及び保護者を交えた四者面談が義務づけられます。(特別な履修支援が必要と判断された学生も、アカデミック・

アドバイザー、担当職員及び保護者を交えた四者面談が義務づけられます。)

◆ 履修手続き

前期及び後期の履修手続きは下図の通りです。

前期履修手続き方法		後期履修手続き方法	
ガイダンス及びオリエンテーション 〔履修・単位認定・学生生活等〕		講義開始	
↓		↓	
各講義の聴講	履修届の作成	各講義の聴講	履修届の作成
↓	↓	↓	↓
履修カード記入	大学事務局へ提出	履修カード記入	大学事務局へ提出
↓	↓	↓	↓
担当教員へ提出	履修変更手続き	担当教員へ提出	履修変更手続き
↓	↓	↓	↓
前期履修手続き完了		後期履修手続き完了	

◆ 仏教学部教育課程略図

学 部	仏教学部		
学 科	仏教学科		
主専攻	日蓮学専攻	文学・芸術専攻	福祉学専攻
副専攻	主専攻以外の専攻を副専攻として履修しなければなりません。副専攻は他の専攻の専門科目から12単位以上履修し、修得してください。		
内 容	仏教学、仏教史、日蓮教学、宗門史、日蓮思想、臨床教学法要式等	文学、カルチャー、仏教彫刻、仏教美術、仏像修復、博物館学、仏教音楽、社会教育等	社会福祉、地域福祉等
主な資格	日蓮宗僧階（権僧都）	学芸員資格 社会教育主事任用資格（社会教育士）	社会福祉士国家試験受験資格、身体障害者福祉司、生活指導員、知的障害者福祉司、社会福祉主事
取得できる資格	社会福祉士国家試験受験資格・学芸員資格・社会教育主事任用資格（社会教育士）・介護福祉士実務者研修・身体障害者福祉司・生活指導員・知的障害者福祉司・社会福祉主事地域福祉コーディネーター・日蓮宗僧階（権僧都）		
就職先	寺院、日蓮宗関係の諸機関、各種企業、博物館等 大学院等への進学	特別養護老人ホームや養護老人ホームなど高齢者施設のケアワーカー、老人保健施設や病院施設のケアワーカー、各種社会福祉施設の職員等	

留意事項

- 1 福祉学専攻においては、1年次に履修した科目を修得できなかった場合、4年間で社会福祉士国家試験受験資格を取得して卒業できない場合もあり得ますので、計画的に履修してください。
- 2 在学中に、社会福祉士国家試験受験資格科目の実習系科目を修得できなかった場合、卒業後に実習系科目を科目等履修生として修得できます。しかし、他の科目は科目等履修生として修得できず、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができません。
- 3 資格取得について
1年次より計画的に履修をしてください。漫然と履修していると資格を取得できないことがありますので、十分に注意してください。

◆ 単位の認定・学期末試験等について

- 1 履修科目の単位修得の認定は、試験などその科目ごとに指定された方法により行われ、一定の基準以上に達した場合のみ、所定の単位が与えられます。
- 2 全教科とも**授業時間数の3分の2以上**を出席しなければなりません。これに満たない場合は、学期末試験を受験することができません。**(3分の2以上出席しても単位が認められるとは限りません。)**
- 3 試験は原則として筆記試験で行われますが、レポート等の方法をもって代えることもあります。
- 4 試験は所定の試験日時及び所定の場所で受けなければなりません。但し、やむを得ない事情によって受験できなかった者に限り、追試験が許可される場合もあります。追試験を受けようとする場合は、定期試験を受験できなかったことを証明する書類を添えて大学所定の日時までに大学事務局に願出しなければなりません。
- 5 レポート等は担当教員の指示する期日までに指定された場所に直接本人が提出しなければなりません。
郵送及び期日に遅れて提出されたものは、受理されません。
- 6 評価及び単位の認定は、原則として学期末に成績通知票の郵送により行います。

◆ 成績の評価制度

1 GPA制度 (Grade Point Average) を導入した、成績の判定を S・A・B・C・D の5段階で行います。

GPA制度の導入について

平成26年度より、修得した科目の評定をS・A・B・Cの4段階で行い、成績を平均化したGPA (Grade Point Average) を全学的に導入しました。これまでの成績評価は、A・B・C・D (不可) の4段階でしたが、これをS・A・B・C・D (不可) の5段階評価に改めます。

従来の4段階評価から5段階評価 (特に従来の「A (優)」を「S (秀)」と「A (優)」に細分化) という、よりきめ細かな成績評価を行うことで、学修の到達度が一層明確になります。

GPA制度は、本来学生自身がそれぞれの学修到達度を質的に把握することにより、学生自身の自覚を促すための指標にすぎないのですが、その状況によっては、大学からの学修指導が行われることとなります。しかし、GPA制度は、成績面から学生にペナルティーを課し、学生を管理することを目的とするわけではなく、学生の勉学の動機付け、励ます制度として導入された制度です。

なお、GPA制度では、単位を修得できなかった不合格科目 (D評価の科目) や未受験科目 (F評価の科目) も成績に加算されます。従って、不合格科目や履修放棄科目が多いとそれだけGPAが低くなり、その意味で学生の勉学への意欲や取り組み方がはっきりと表れます。

また、GPA制度は教育の国際化に対応できる指標であるために、最近日本でもGPA制度と併せて5段階評価を導入する大学が増えていることから、他大学の制度との互換性を高めることにもなります。

2 試験得点に応じて5段階 (4.0、3.0、2.0、1.0、0) の数値【グレード・ポイント (以下「GP」という。)] 設定をします。なお、受講を途中でやめた科目や不合格となった科目はGPが0点となります。

3 各履修科目のGPに、科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で割ったものがGPAとなります。

4 成績評価とGP

評価区分	評定記号と評価内容	付加するGP	旧評価
100～90点	S (秀) : 特に優れた成績である	4	A
89～80点	A (優) : 優れた成績である	3	
79～70点	B (良) : 概ね妥当な成績である	2	B
69～60点	C (可) : 合格に必要な最低限度を満たした成績である	1	C
59～0点	D (不可) : 合格には至らない成績である	0	D
	N : 単位認定科目であり、GPA計算対象外	なし	

(1) GPAの対象となる授業科目

以下に該当する科目を除く、全ての授業科目がGPAの対象となります。

〈以下に該当する科目はGPが付加されません。〉

- ① 合格か不合格かだけを判定する授業科目
- ② 編入学または転入学した際の単位認定科目
- ③ 本学入学前に修得した単位認定科目
- ④ 他大学との単位互換等で修得した科目
- ⑤ 高大連携の単位認定

(2) 算出方法

算出式は次のとおりです。

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{総履修単位数 (「D (不可)」) の単位数を含む}}$$

(注1) GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとします。

(注2) 「総履修登録単位数」には、不合格科目を再履修し、合格の評価を得た場合及び再履修の結果再び、不合格の評価であった場合、それぞれ再履修前の不合格評価については、通算のGPAには算入しません。

(参考) ある学生のGPA

授業科目名	単位	得点	評価	GP	GP×科目の単位数
哲学	2	92	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
政治学	2	75	B (良)	2.0	2.0×2 = 4.0
自然科学入門	2	35	D (不可)	0.0	0.0×2 = 0.0
倫理学	2	70	B (良)	2.0	2.0×2 = 4.0
健康とスポーツの科学	2	受験不可	D (不可)	0.0	0.0×2 = 0.0
英語A	2	80	A (優)	3.0	3.0×2 = 6.0
日蓮聖人伝	2	90	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
発達心理学	2	64	C (可)	1.0	1.0×2 = 2.0
心理学	2	84	A (優)	3.0	3.0×2 = 6.0
介護総論	2	100	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
日蓮学入門	2	95	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
合計	22				54.0ポイント

GPA = 2.5 (54.0 ÷ 22 = 2.45...小数点第2位を四捨五入する)

◆ 仏教学科履修表

1 主専攻による履修表

(1) 教養科目

分野	履修方法	最低修得単位数
人文・社会科学系科目	6単位以上修得	必修科目を含む、28単位以上修得
自然科学系・総合領域科目	6単位以上修得	
地域教養科目	2単位以上修得	
情報科目	2単位以上修得	
保健体育科目	2単位以上修得	
語学科目	同一科目(A・B)4単位以上修得	

(2) 専門基礎科目

区分	専攻	最低修得単位数
専門基礎科目	日蓮学専攻	必修科目を含む、12単位以上修得
	文学・芸術専攻	
	福祉学専攻	

(3) 専門科目

区分	専攻	履修方法	最低修得単位数
専門科目	日蓮学専攻	日蓮学専攻科目の「日蓮学系科目」「仏教学系科目」「仏教実践系科目」から履修 共通科目の「キャリア系科目」「ゼミナール・卒業論文」から履修	主専攻より必修科目を含めて72単位以上、副専攻より12単位以上の合計84単位以上修得
	文学・芸術専攻	文学・芸術専攻科目の「仏教芸術系科目」「文学・歴史学系科目」「博物館学系科目」「社会教育士系科目」から履修 共通科目の「キャリア系科目」「ゼミナール・卒業論文」から履修	
	福祉学専攻	福祉学専攻科目の「福祉理論系科目」「福祉技術系科目」から履修 共通科目の「キャリア系科目」「ゼミナール・卒業論文」から履修	

(4) 教養科目・専門基礎科目・専門科目の合計

専攻	教養科目	専門基礎科目	主専攻専門科目	副専攻専門科目	合計
日蓮学専攻	28単位以上修得	12単位以上修得	72単位以上修得	12単位以上修得	124単位以上修得
文学・芸術専攻	28単位以上修得	12単位以上修得	72単位以上修得	12単位以上修得	
福祉学専攻	28単位以上修得	12単位以上修得	72単位以上修得	12単位以上修得	

◆身延山大学のコンピデンスー【特色のある教育プログラム】

一般的な定義では、高い仕事力を維持している社会人に共通して見られる行動特性のことです。高い能力を有する社会人の思考や行動を分析して、その能力を身につけることで、社会的に求められる人材となることを大学教育の中に落とし込み、学生にとって求められる能力の獲得に結びつけてゆくための指針（コンピデンスー）と、その指針に基づいた教育内容の展開を意味します。

身延山大学のコンピデンスーは、7種別21項目として表しています。

種別	項目	種別	項目
人間力 (生涯学習力)	多様な学問の考え方	表現力	文章表現力
	健康力		口頭表現力
	地域理解	思考力	批判的思考力
	異文化理解		論理的思考力
	外国語リテラシー	課題探求力	課題設定力
知識活用能力 (情報リテラシー)	情報収集力		構想力
	情報分析力		計画力
	情報構成力	実行力	
コミュニケーション力	読解力	課題解決力	評価力
	傾聴力		改善力
	会話力		

◆ 授業科目

授業科目には、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」があります。必修科目は必ず修得しなければならない科目、選択必修科目は定められた科目の中から選択して必ず修得しなければならない科目のことです。必修科目と選択必修科目から定められた単位を修得しなければ、規定の総単位（124単位）に達していても、卒業ができません。

◆ 単 位

授業科目には学習内容に応じて単位が定められ、授業に出席し、試験等に合格した者に対し単位が与えられます。『大学設置基準』では、「単位」について次のように定められています。

第21条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

2 前項の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもってこれを1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

1年間の授業時間

第22条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

◆ 授業形態について

本学の授業形態は「対面授業」と「遠隔授業」があります。多くの科目は「対面授業」で行われます

が、「遠隔授業」で行う科目、「対面授業」と「遠隔授業」を併用する科目もあります。通常は「対面授業」で行われますが、諸事情により急遽「遠隔授業」に変更となる場合もあります。また、年度途中で全面的に対面・遠隔のいずれか、あるいは全く異なる授業形式に移行することも考えられます。なお、変更が生じる場合、Gmail でお知らせします。

1 「対面授業」について

基本的に教室において教員が対面により、学生に対して「講義」「教育研究指導」「実験・実習」等を行う授業です。(小中高と同じ授業形式です。)

2 「遠隔授業」について

インターネットに接続したデバイスを利用して行う授業です。

3 本学での「遠隔授業」について

(1) 同時双方向型(リアルタイム配信、ライブ配信)授業

ビデオ会議システム等を利用し、基本的には時間割の開講時限にあわせて授業を行います。教員と学生がオンライン上で集まり、映像と音声、資料を共有しながら、対面授業と同じ形式で授業が進められます。教員と学生が、互いに映像・音声等によるやり取りを行い、質疑応答の機会が確保されます。

(2) オンデマンド授業

同時双方向ではなく、授業動画、音声付きのパワーポイントなどを視聴し、または、提示された資料や教科書をもとに教員の指示に従って課題を提出する授業です。授業毎に設問・解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を行い、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会が確保されます。

(3) ハイフレックス形式授業(同時双方向型と対面授業形式の併用)

時間割に記載された時限に、同時双方向型(リアルタイム配信)と教室での対面授業で開講されます。学生さんはPC又はタブレットで、ネット接続が可能な所でしたらどこでも受講ができます。また、教室においても対面授業形式で受講できます。

4 「遠隔授業」受講のルール(「対面授業」でも適応)

次のルールを遵守した上で、遠隔授業を受講してください。なお、このルールは対面授業でも適用されます。

- (1) 遠隔授業を妨害する行為をしてはいけません。(遠隔授業等に対する不正なアクセスや不適切な行為等も含まれます。)
- (2) 遠隔授業や配布資料へのアクセスのために与えられた URL、ID 及びパスワード等を他者に教えるはいけません。
- (3) 配布されたファイル(音声・動画・画像)、教材、資料等を他者に送付する。または、SNS や掲示板等インターネット上にアップロードをしてはいけません。
- (4) 許可なく担当教員や受講者の動画・画像や音声を取得し、SNS や掲示板等インターネット上にアップロードしてはいけません。
- (5) 受講者の氏名、学籍番号等の個人情報を SNS や掲示板等インターネット上にアップロードしたり、外部に漏洩及び公表してはいけません。
- (6) 担当教員や受講者について、SNS や掲示板等で誹謗中傷や、誤った情報を発信してはいけません。
- (7) 「遠隔授業」では、自分からの発信が他の受講者にも見られていることを十分に認識し、自分の個人情報の管理にも気をつけてください。自分の画像・音声は他の受講者にも見られていることに留意してください。
- (8) 「遠隔授業」においても、「身延山大学学則第46条」に定める本学学生の本分に反する行為を行ってはいけません。
- (9) (7) を除く上記のことを守られなかった場合には、本学が付与するアカウント等を停止することがあります。また、本学学則により懲戒処分の対象となり、法律に基づく処分を受けることもあります。

◆ 講義科目のナンバリング制度

令和3年度から本学では、授業内容や履修年次等に応じた、講義科目のナンバリング制度を設けました。ナンバリングは、開設科目に科目の位置づけや授業の難易度など適切な番号を付け、教育課程の体系的がわかるようにする仕組みです。学問体系などを知らないままやみくもに授業科目を選んでも、その学問領域や知識が身につけられるわけではありません。授業科目に記号と番号を振り、授業の難易度・性格、位置づけ、履修順を明確にすることによって、学生はどの科目から履修していけばよいかを理解し、履修する授業がいかなる位置にあり、どのような目的で履修するのかを把握することができます。ナンバリングはシラバスに記入してあります。

1 ナンバリングの構成内容（全6英数字）

大分野	分野	難易度 (D)	通し番号
英字1文字	英字2文字	数字1文字	数字2文字

*留意事項 令和3年度科目の「通し番号」は奇数のみです。

2 分野と略号表（付与はすべて小文字）

分野名	大分野略号	分野略号	分野名	大分野略号	分野略号	
人文・社会科学系科目	l (教養)	l s	キャリア系科目	s (特別)	ca	
自然科学系・総合領域科目		s m	ゼミナール科目		卒業論文科目	se
						st
地域教養科目		c l	学芸員科目	c (資格)	mc	
情報科目		si	社会教育主事科目		se	
保健体育科目		ma	社会福祉主事科目		sw	
語学科目		l c	教職科目		fs	
専門基礎科目	m (専門)	mb	日本語科目	j	j i	
日蓮学系科目		n b				
仏教学系科目		bs				
仏教実践系科目		bp				
仏教芸術系科目		ba				
宗教学系科目		t h				
博物館系科目		mu				
福祉理論系科目		w t				
福祉技術系科目		ws				

3 科目難易度 (Difficulty) 項目について

D (難易度)	D (難易度) の考え方	履修年次の目安
0	認定科目などの非評価科目	GPA 除外科目 (点数評価に該当しない科目)
1	大学生が知っておくべき基礎・基本に該当する難度	1年次履修推奨科目 1~4年次履修推奨科目
2	1よりも難しいが基礎・基本の範疇に該当する難度	2年次履修推奨科目
3	専門課程に必須な知識や技能を身につける難度	2・3・4年次履修推奨科目 (含: 2・3年次履修科目)
4	専門課程の応用力を養う難度	3・4年次履修推奨科目
5	専門課程の発展的な力を養う難度	4年次履修推奨科目
6	大学生の学修の集大成となる難度	卒業論文

4 表記例

①科目名 日蓮教団史 ナンバリング mnb201

大分野	分野	難易度 (D)	通し番号
専門科目	日蓮学系科目	2	01 から
m	nb	2	01 (仮)

②科目名 音楽療法 ナンバリング mba321

大分野	分野	難易度 (D)	通し番号
専門科目	仏教芸術系科目	3	01 から
m	ba	3	21 (仮)

③科目名 ソーシャルワーク実習Ⅱ ナンバリング mws421

大分野	分野	難易度 (D)	通し番号
専門科目	福祉技術系科目	4	01 から
m	Ws	4	21 (仮)

◆ 時間割

学期は、前期・後期とし、各学期は原則として15週とします。毎日の講義時間は1時限（1コマ）90分を原則として、下表の通り、5時限（5コマ）に区切って授業を行います。

時間割	
時 限	授業時間
第1時限	8:50～10:20
第2時限	10:25～11:55
昼休み	11:55～12:25
第3時限	12:25～13:55
第4時限	14:00～15:30
第5時限	15:35～17:05

◆ ガイダンス

ガイダンスでは、新しい学年のはじめに、各科目を受講するための履修方法・登録及び大学生活を送る上での必要事項についての説明がなされます。下記のガイダンスがありますので必ず出席し、確認するようにして下さい。

- ・在校生ガイダンス 在校生（2・3・4年生）を対象としたガイダンス
- ・新入生オリエンテーション 新入生（1年生・編入生）を対象としたオリエンテーション
- ・諸資格ガイダンス 諸資格課程履修者を対象としたガイダンス
（在校生 在校生ガイダンス時 新入生・編入生 新入生ガイダンス時）
- ・個別履修相談 全学年を対象とした履修方法の個別相談（4月初旬から中旬 大学事務局）

◆ アカデミック・アドバイザー制度

アカデミック・アドバイザーは「学業上の助言者」という意味ですが、本学では担当教員が、学生一人ひとりに対し、入学から卒業まで学習全般や学生生活の指導、助言及び相談を行い、効果的な学習を支援します。いわゆる担任の先生の役割をします。気軽に相談してください。

【アカデミック・アドバイザーの役割】

- （1）履修登録に関する指導

履修登録については、学生本人の希望を優先しますが、修得単位や就職希望等を勘案し出来るだけ高

い学習効果が得られるよう指導・助言を行います。

(2) 学習に関する指導

履修登録に関する指導や、学習に関する指導・助言を行います。履修登録終了後も学生の学習状況を確認し、学習面のアドバイスをを行います。

(3) 成績不振学生に対する指導

当該学期の修得単位数が10単位以下の学生や、GPAが1.5未満の学生に対し、個別に指導を行います。

(4) 学生生活の指導、助言及び相談

入学したばかりの1年生や編入生の皆さんは勉学上の悩みだけではなく、生活上の悩みに直面するかも知れません。大学生活になじめない、健康がすぐれない、気分が落ち込む、セクシュアルハラスメントの被害にあう、経済上の問題等があります。こうした悩みについてもアカデミック・アドバイザーは相談に乗ってくれる頼もしい存在です。

◆ 履修上の規定

科目を履修するためには、前期は、前期履修登録締切日（年間行事予定表参照）までに、後期は、後期履修登録締切日（年間行事予定表参照）までに、各自が履修登録をしなければなりません。履修登録を行わなければ、試験を受けても単位取得が認められません。

履修登録をするためには、所定の期日までに、『履修カード』を担当教員に、『履修届』を大学事務局に提出しなければなりません。『履修カード』に記入した科目と『履修届』に記入した科目が同じ場合のみ、履修登録が完了となります。『履修カード』、『履修届』に、不明瞭に記された科目については、その登録が無効となりますので注意して下さい。

『履修カード』 …前期・後期の学期当初に、大学事務局にて配布します。講義コード・講義名・担当教員名等を記入し、前期・後期の第一回講義時に提出します。

『履修届』 …前期・後期の学期当初に、大学事務局にて配布します。履修科目・講義コード・講義名・担当教員名等を記入し、大学事務局に提出して下さい。

同時限に重複する科目を登録したり、年次指定を間違えたりしないように注意して下さい。

◆ 履修登録後の注意

- 1 履修登録後は、登録された科目以外は履修が認められません。
- 2 履修変更（登録変更）は、年間行事予定表を参照し、履修登録変更届期限内に行ってください。それ以外の履修変更は、一切認められません。

◆ 年間制限単位数

1 変動型CAP制度の導入について

本学では学生が学力に応じた十分な学修時間を確保するために、履修登録可能な単位数の上限を、学期ごとの成績（GPA）により上下する制度（変動型CAP制度）を採用しています。

変動型CAP制度とは、前学期のGPAにより、下表に示す履修上限単位数が4段階に変動する制度のことです。この制度を導入する背景には、1，2年次の学生が単位を多く履修して、予習・復習も不十分なまま授業に臨み、どの科目も理解不十分になり、途中で履修を放棄する事例が多く見られたからです。そこで本学ではGPAを基にして、履修可能な単位数の上限（CAP制）を設定することで、学生自身が自らの成績状況を理解し、学修内容に応じて学修時間を確保し、能動的に関わってゆけるように本制度の導入を行っています。

2 成績優秀学生の履修年次を越えた科目の履修について

変動型CAP制度により前学期のGPAがS又はAランクの成績が優秀な学生は、履修可能単位数内であれば履修希望科目の履修年次に関係なく履修が可能です。その際にはアカデミック・アドバイザーと相談の上、次の事項に留意の上、履修する科目を決めてください。

- (1) 副専攻の履修も考慮してください。
- (2) 特に低学年次に、開講科目のナンバリング及びカリキュラムツリーにおいて難易度が高い科目を履修する際には、十分留意してください。(科目難易度 (Difficulty) 項目を参照してください。)
- (3) 低学年次には資格取得も視野に入れた履修を考慮してください。

2 変動型CAP制度 (履修制限)

ランク	前学期のGPA	履修可能単位数
Sランク	3.5 以上	28
Aランク	2.5 以上 3.5 未満	26
Bランク	1.5 以上 2.5 未満	24 (基準値)
Cランク	1.5 未満 (履修支援対象者)	18

- (1) 新入生 (1年生・編入生)・休学生や病欠欠席等のやむを得ない事由により、その学期のすべての授業科目を履修できなかった場合、次学期の上限単位数はGPAと関係なく基準値の24単位となります。
- (2) 長期履修生の履修できる単位の上限は前期18単位・後期18単位です。ただし、資格取得のための単位数については制限がありません。また、卒業論文についても上限数に加えて履修できます。

3 本学の最低履修単位数について

学年	学期	履修可能単位数	最低履修単位数	資格取得のための単位数
第1学年	前期	前学期のGPAにより各自異なります。 基準値は24単位となります。	指定しません。	制限なし
	後期			
第2学年	前期			
	後期			
第3学年	前期			
	後期			
第4学年	前期	※後期に履修可能単位数以外に卒業論文(8単位)を履修することも可能です。	8単位 (卒業論文を含む)	制限なし
	後期			
	合計			
卒業基準単位		124単位	124単位	

4 履修上の学生支援について

- (1) GPAがCランクの場合、アカデミック・アドバイザー及び担当職員による履修支援が行われます。(上記のGPAの数値に関わらず履修支援が必要と判断した学生も、アカデミック・アドバイザー及び担当職員による履修支援が行われます。)
- (2) 2学期連続してGPAがCランクの場合、アカデミック・アドバイザー、担当職員及び保護者を交えた四者面談が義務づけられます。(特別な履修支援が必要と判断された学生も、アカデミック・アドバイザー、担当職員及び保護者を交えた四者面談が義務づけられます。)

◆ 履修手続き

前期及び後期の履修手続きは下図の通りです。

前期履修手続き方法		後期履修手続き方法	
ガイダンス及びオリエンテーション 〔履修・単位認定・学生生活等〕		講義開始	
↓		↓	
各講義の聴講	履修届の作成	各講義の聴講	履修届の作成
↓	↓	↓	↓
履修カード記入	大学事務局へ提出	履修カード記入	大学事務局へ提出
↓	↓	↓	↓
担当教員へ提出	履修変更手続き	担当教員へ提出	履修変更手続き
↓	↓	↓	↓
前期履修手続き完了		後期履修手続き完了	

◆ 仏教学部教育課程略図

学部	仏教学部		
学科	仏教学科		
主専攻	日蓮学専攻	仏教芸術専攻	福祉学専攻
副専攻	主専攻以外の専攻を副専攻として履修しなければなりません。副専攻は他の専攻の専門科目から12単位以上履修し、修得してください。		
内容	仏教学、仏教史、日蓮教学、宗門史、日蓮思想、臨床教学法要式等	文学、仏教彫刻、仏教美術、仏像修復、博物館学、仏教音楽、社会教育等	社会福祉、地域福祉等
主な資格	日蓮宗僧階（権僧都）	学芸員資格	社会福祉士国家試験受験資格、身体障害者福祉司、生活指導員、知的障害者福祉司、社会福祉主事
取得できる資格	社会福祉士国家試験受験資格・学芸員資格・社会教育主事任用資格（社会教育士）・介護福祉士実務者研修・身体障害者福祉司・生活指導員・知的障害者福祉司・社会福祉主事地域福祉コーディネーター・日蓮宗僧階（権僧都）・高校公民1種・高校宗教1種（令和3年度以前入学者）		
就職先	寺院、日蓮宗関係の諸機関、各種企業、博物館等 大学院等への進学	特別養護老人ホームや養護老人ホームなど高齢者施設のケアワーカー、老人保健施設や病院施設のケアワーカー、各種社会福祉施設の職員等	

留意事項

- 福祉学専攻においては、1年次に履修した科目を修得できなかった場合、4年間で社会福祉士国家試験受験資格を取得して卒業できない場合もあり得ますので、計画的に履修してください。

2 在学中に、社会福祉士国家試験受験資格科目の実習系科目を修得できなかった場合、卒業後に実習系科目を科目等履修生として修得できます。しかし、他の科目は科目等履修生として修得できず、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができません。

3 資格取得について

1年次より計画的に履修をしてください。漫然と履修していると資格を取得できないことがありますので、十分に注意してください。

◆ 単位の認定・学期末試験等について

1 履修科目の単位修得の認定は、試験などその科目ごとに指定された方法により行われ、一定の基準以上に達した場合のみ、所定の単位が与えられます。

2 全教科とも**授業時間数の3分の2以上**を出席しなければなりません。これに満たない場合は、学期末試験を受験することができません。**(3分の2以上出席しても単位が認められるとは限りません。)**

3 試験は原則として筆記試験で行われますが、レポート等の方法をもって代えることもあります。

4 試験は所定の試験日時及び所定の場所で受けなければなりません。但し、やむを得ない事情によって受験できなかった者に限り、追試験が許可される場合もあります。追試験を受けようとする場合は、定期試験を受験できなかったことを証明する書類を添えて大学所定の日時までに大学事務局に願出しなければなりません。

5 レポート等は担当教員の指示する期日までに指定された場所に直接本人が提出しなければなりません。

郵送及び期日に遅れて提出されたものは、受理されません。

6 評価及び単位の認定は、原則として学期末に成績通知票の郵送により行います。

◆ 成績の評価制度

1 GPA制度 (Grade Point Average) を導入した、成績の判定を S・A・B・C・D の5段階で行います。

GPA制度の導入について

平成26年度より、修得した科目の評定をS・A・B・Cの4段階で行い、成績を平均化したGPA (Grade Point Average) を全学的に導入しました。これまでの成績評価は、A・B・C・D (不可) の4段階でしたが、これをS・A・B・C・D (不可) の5段階評価に改めます。

従来の4段階評価から5段階評価 (特に従来の「A (優)」を「S (秀)」と「A (優)」に細分化) という、よりきめ細かな成績評価を行うことで、学修の到達度が一層明確になります。

GPA制度は、本来学生自身がそれぞれの学修到達度を質的に把握することにより、学生自身の自覚を促すための指標にすぎないのですが、その状況によっては、大学からの学修指導が行われることとなります。しかし、GPA制度は、成績面から学生にペナルティーを課し、学生を管理することを目的とするわけではなく、学生の勉学の動機付け、励ます制度として導入された制度です。

なお、GPA制度では、単位を修得できなかった不合格科目 (D評価の科目) や未受験科目 (F評価の科目) も成績に加算されます。従って、不合格科目や履修放棄科目が多いとそれだけGPAが低くなり、その意味で学生の勉学への意欲や取り組み方がはっきりと表れます。

また、GPA制度は教育の国際化に対応できる指標であるために、最近日本でもGPA制度と併せて5段階評価を導入する大学が増えていることから、他大学の制度との互換性を高めることにもなります。

2 試験得点に応じて5段階 (4.0、3.0、2.0、1.0、0) の数値【グレード・ポイント (以下「GP」という。)] 設定をします。なお、受講を途中でやめた科目や不合格となった科目はGPが0点となります。

3 各履修科目のGPに、科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で割ったものがGPAとなります。

4 成績評価とGP

評価区分	評定記号と評価内容	付加するGP	旧評価
100~90点	S (秀) : 特に優れた成績である	4	A
89~80点	A (優) : 優れた成績である	3	
79~70点	B (良) : 概ね妥当な成績である	2	B
69~60点	C (可) : 合格に必要な最低限度を満たした成績である	1	C
59~0点	D (不可) : 合格には至らない成績である	0	D
	N : 単位認定科目であり、GPA計算対象外	なし	

(1) GPAの対象となる授業科目

以下に該当する科目を除く、全ての授業科目がGPAの対象となります。

(以下に該当する科目はGPが付加されません。)

- ① 合格か不合格だけを判定する授業科目
- ② 編入学または転入学した際の単位認定科目
- ③ 本学入学前に修得した単位認定科目
- ④ 他大学との単位互換等で修得した科目
- ⑤ 高大連携の単位認定

(2) 算出方法

算出式は次のとおりです。

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{総履修単位数 (「D (不可)」) の単位数を含む}}$$

(注1) GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとします。

(注2) 「総履修登録単位数」には、不合格科目を再履修し、合格の評価を得た場合及び再履修の結果再び不合格の評価であった場合、それぞれ再履修前の不合格評価については、通算のGPAには算入しません。

(参考) ある学生のGPA

授業科目名	単位	得点	評価	GP	GP×科目の単位数
哲学	2	92	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
政治学	2	75	B (良)	2.0	2.0×2 = 4.0
自然科学入門	2	35	D (不可)	0.0	0.0×2 = 0.0
倫理学	2	70	B (良)	2.0	2.0×2 = 4.0
健康とスポーツの科学	2	受験不可	D (不可)	0.0	0.0×2 = 0.0
英語A	2	80	A (優)	3.0	3.0×2 = 6.0
日蓮聖人伝	2	90	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
発達心理学	2	64	C (可)	1.0	1.0×2 = 2.0
心理学	2	84	A (優)	3.0	3.0×2 = 6.0
介護総論	2	100	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
日蓮学入門	2	95	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
合計	22				54.0ポイント

GPA = 2.5 (54.0 ÷ 22 = 2.45...小数点第2位を四捨五入する)

◆ 仏教学科履修表

1 主専攻による履修表

(1) 教養科目

分野	履修方法	最低修得単位数
人文・社会科学系科目	6単位以上修得	必修科目を含む、28単位以上修得
自然科学系・総合領域科目	6単位以上修得	
地域教養科目	2単位以上修得	
情報科目	2単位以上修得	
保健体育科目	2単位以上修得	
語学科目	同一科目(A・B)4単位以上修得	

(2) 専門基礎科目

区分	専攻	最低修得単位数
専門基礎科目	日蓮学専攻	必修科目を含む、12単位以上修得
	仏教芸術専攻	
	福祉学専攻	

(3) 専門科目

区分	専攻	履修方法	最低修得単位数
専門科目	日蓮学専攻	日蓮学専攻科目の「日蓮学系科目」「仏教学系科目」「仏教実践系科目」から履修 共通科目の「キャリア系科目」「ゼミナール・卒業論文」から履修	主専攻より必修科目を含めて72単位以上、 副専攻より12単位以上、 合計84単位以上修得
	仏教芸術専攻	仏教芸術専攻科目の「仏教芸術系科目」「宗教学系科目」「博物館学系科目」から履修 共通科目の「キャリア系科目」「ゼミナール・卒業論文」から履修	
	福祉学専攻	福祉学専攻科目の「福祉理論系科目」「福祉技術系科目」から履修 共通科目の「キャリア系科目」「ゼミナール・卒業論文」から履修	

(4) 教養科目・専門基礎科目・専門科目の合計

専攻	教養科目	専門基礎科目	主専攻専門科目	副専攻専門科目	合計
日蓮学専攻	28単位以上修得	12単位以上修得	72単位以上修得	12単位以上修得	124単位以上修得
仏教芸術専攻	28単位以上修得	12単位以上修得	72単位以上修得	12単位以上修得	
福祉学専攻	28単位以上修得	12単位以上修得	72単位以上修得	12単位以上修得	

～令和2年度以前入学者適応～

◆身延山大学のコンピテンシー【特色のある教育プログラム】

一般的な定義では、高い仕事力を維持している社会人に共通して見られる行動特性のことです。高い能力を有する社会人の思考や行動を分析して、その能力を身につけることで、社会的に求められる人材となることを大学教育の中に落とし込み、学生にとって求められる能力の獲得に結びつけてゆくための指針（コンピテンシー）と、その指針に基づいた教育内容の展開を意味します。

身延山大学のコンピテンシーは、7種別21項目として表しています。

種別	項目	種別	項目
人間力 (生涯学習力)	多様な学問の考え方	表現力	文章表現力
	健康力		口頭表現力
	地域理解	思考力	批判的思考力
	異文化理解		論理的思考力
	外国語リテラシー	課題探求力	課題設定力
知識活用能力 (情報リテラシー)	情報収集力		構想力
	情報分析力		計画力
	情報構成力	実行力	
コミュニケーション力	読解力	課題解決力	評価力
	傾聴力		改善力
	会話力		

◆ 授業科目

授業科目には、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」があります。必修科目は必ず修得しなければならない科目、選択必修科目は定められた科目の中から選択して必ず修得しなければならない科目のことです。必修科目と選択必修科目から定められた単位を修得しなければ、規定の総単位（124単位）に達していても、卒業ができません。

◆ 単 位

授業科目には学習内容に応じて単位が定められ、授業に出席し、試験等に合格した者に対し単位が与えられます。『大学設置基準』では、「単位」について次のように定められています。

第21条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

2 前項の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもってこれを1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

1年間の授業時間

第22条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

◆ 授業形態について

本学の授業形態は「対面授業」と「遠隔授業」があります。多くの科目は「対面授業」で行われます

が、「遠隔授業」で行う科目、「対面授業」と「遠隔授業」を併用する科目もあります。通常は「対面授業」で行われますが、諸事情により急遽「遠隔授業」に変更となる場合もあります。また、年度途中で全面的に対面・遠隔のいずれか、あるいは全く異なる授業形式に移行することも考えられます。なお、変更が生じる場合、Gmail でお知らせします。

1 「対面授業」について

基本的に教室において教員が対面により、学生に対して「講義」「教育研究指導」「実験・実習」等を行う授業です。(小中高と同じ授業形式です。)

2 「遠隔授業」について

インターネットに接続したデバイスを利用して行う授業です。

3 本学での「遠隔授業」について

(1) 同時双方向型(リアルタイム配信、ライブ配信)授業

ビデオ会議システム等を利用し、基本的には時間割の開講時限にあわせて授業を行います。教員と学生がオンライン上で集まり、映像と音声、資料を共有しながら、対面授業と同じ形式で授業が進められます。教員と学生が、互いに映像・音声等によるやり取りを行い、質疑応答の機会が確保されます。

(2) オンデマンド授業

同時双方向ではなく、授業動画、音声付きのパワーポイントなどを視聴し、または、提示された資料や教科書をもとに教員の指示に従って課題を提出する授業です。授業毎に設問・解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を行い、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会が確保されます。

(3) ハイフレックス形式授業(同時双方向型と対面授業形式の併用)

時間割に記載された時限に、同時双方向型(リアルタイム配信)と教室での対面授業で開講されます。学生さんはPC又はタブレットで、ネット接続が可能な所でしたらどこでも受講ができます。また、教室においても対面授業形式で受講できます。

4 「遠隔授業」受講のルール(「対面授業」でも適応)

次のルールを遵守した上で、遠隔授業を受講してください。なお、このルールは対面授業でも適用されます。

- (1) 遠隔授業を妨害する行為をしてはいけません。(遠隔授業等に対する不正なアクセスや不適切な行為等も含まれます。)
- (2) 遠隔授業や配布資料へのアクセスのために与えられた URL、ID 及びパスワード等を他者に教えるはいけません。
- (3) 配布されたファイル(音声・動画・画像)、教材、資料等を他者に送付する。または、SNS や掲示板等インターネット上にアップロードをしてはいけません。
- (4) 許可なく担当教員や受講者の動画・画像や音声を取得し、SNS や掲示板等インターネット上にアップロードしてはいけません。
- (5) 受講者の氏名、学籍番号等の個人情報を SNS や掲示板等インターネット上にアップロードしたり、外部に漏洩及び公表してはいけません。
- (6) 担当教員や受講者について、SNS や掲示板等で誹謗中傷や、誤った情報を発信してはいけません。
- (7) 「遠隔授業」では、自分からの発信が他の受講者にも見られていることを十分に認識し、自分の個人情報の管理にも気をつけてください。自分の画像・音声は他の受講者にも見られていることに留意してください。
- (8) 「遠隔授業」においても、「身延山大学学則第46条」に定める本学学生の本分に反する行為を行ってはいけません。
- (9) (7) を除く上記のことを守られなかった場合には、本学が付与するアカウント等を停止することがあります。また、本学学則により懲戒処分の対象となり、法律に基づく処分を受けることもあります。

◆ 講義科目のナンバリング

本学では、授業内容や履修年次等に応じた、講義科目のナンバリング制度を設けました。全て数字で構成されています。その科目がどの分野で、どれくらいのレベルであるかを知るために活用してください。

なお、本学は仏教学科のみであるために、学科を区別するコードはありません。

(1) 基礎系科目について

区分	分野	履修年次	コード
教養科目	人間探求科目 社会探求科目 情報科目 総合科目 保健体育科目 語学科目	全て1年又は2年次以上で修得する科目です。	1番台から200番台まで
専門基礎科目	専門基礎科目		500番台

(2) 専門系科目について

科目名	区分コード	分野コード	履修年次	枝番
例) 日蓮教学史	1	0	7	1
	専門科目 1 卒業論文 2 資格取得に関する科目 5 日本語科目 9	分野一覧表参照	1年次以上 0 2年次以上 3 3年次以上 7	番号

※卒業論文及び卒業制作のコードは全て2000番台です。

※専門系科目における「分野一覧表」

分野	分類番号	分野	分類番号	分野	分類番号
日蓮学系科目	0	仏教学系科目	1	仏教実践系科目	2
仏教芸術系科目	3	宗学系科目	4	博物館学系科目	5
福祉理論系科目	6	キャリア系科目	7	ゼミナール系科目	8

(3) 資格取得に関する科目について

科目名	区分コード	分野コード	履修年次	枝番
例) 教職論	5	1	3	2
	資格取得に関する科目 5	分野一覧表参照	1年次以上 0 2年次以上 3 3年次以上 7	番号

※資格取得に関する科目の「分野一覧表」

分野	分類番号	分野	分類番号
学芸員資格取得に関する科目	0	教職員免許状取得に関する科目	1
社会教育主事資格取得に関する科目	2	社会福祉士国家試験受験資格に関する科目	3
介護福祉士国家試験受験資格取得に関する科目	4	保育士資格取得に関する科目	5

(4) 留学生の日本語教育に関する科目について

留学生の日本語教育に関する科目のコードは全て9000番台です。

(5) その他

一部の資格取得科目については該当しない場合もあります。不明な点は大学事務局に問合せください。

◆ 時間割

学期は、前期・後期とし、各学期は原則として15週とします。毎日の講義時間は1時限（1コマ）90分を原則として、以下の表の通り、5時限（5コマ）に区切って授業を行います。

時間割	
時 限	授業時間
第1時限	8：50～10：20
第2時限	10：25～11：55
昼休み	11：55～12：25
第3時限	12：25～13：55
第4時限	14：00～15：30
第5時限	15：35～17：05

◆ ガイダンス

ガイダンスでは、新しい学年のはじめに、各科目を受講するための履修方法・登録及び大学生活を送る上での必要事項についての説明がなされます。下記のガイダンスがありますので必ず出席し、確認するようにして下さい。

- ・在校生ガイダンス 在校生（2・3・4年生）を対象としたガイダンス
- ・新入生オリエンテーション 新入生（1年生・編入生）を対象としたオリエンテーション
- ・諸資格ガイダンス 諸資格課程履修者を対象としたガイダンス
（在校生ガイダンス時 新入生・編入生ガイダンス時）
- ・個別履修相談 全学年を対象とした履修方法の個別相談（4月初旬から中旬 大学事務局）

◆ アカデミック・アドバイザー制度

アカデミック・アドバイザーは「学業上の助言者」という意味ですが、本学では担当教員が、学生一人ひとりに対し、入学から卒業まで学習全般や学生生活の指導、助言及び相談を行い、効果的な学習を支援します。いわゆる担任の先生の役割をします。一人じゃないから頑張ることもできます！

【アカデミック・アドバイザーの役割】

(1) 履修登録に関する指導

履修登録については、学生本人の希望を優先しますが、修得単位や就職希望等を勘案し出来るだけ高い

学習効果が得られるよう指導・助言を行います。

(2) 学習に関する指導

履修登録に関する指導や、学習に関する指導・助言を行います。履修登録終了後も学生の学習状況を確認し、学習面のアドバイスを行います。

(3) 成績不振学生に対する指導

当該学期の修得単位数が10単位以下の学生や、GPAが1.5未満の学生に対し、個別に指導を行います。

(4) 学生生活の指導、助言及び相談

入学したばかりの1年生や編入生の皆さんは勉学上の悩みだけではなく、生活上の悩みに直面するかも知れません。大学生活になじめない、健康がすぐれない、気分が落ち込む、セクシュアルハラスメントの被害にあう、経済上の問題等があります。こうした悩みについてもアカデミック

ク・アドバイザーは相談に乗ってくれる頼もしい存在です。

◆ 履修上の規定

科目を履修するためには、前期は、前期履修登録締切日（年間行事予定表参照）までに、後期は、後期履修登録締切日（学年暦参照）までに、各自が履修登録をしなければなりません。履修登録を行わなければ、試験を受けても単位取得が認められません。

履修登録をするためには、所定の期日までに、『履修カード』を担当教員に、『履修届』を大学事務局に提出しなければなりません。『履修カード』に記入した科目と『履修届』に記入した科目が同じ場合のみ、履修登録が完了となります。『履修カード』、『履修届』に、不明瞭に記された科目については、その登録が無効となりますので注意して下さい。

『履修カード』 …前期・後期の学期当初に、大学事務局にて配布します。講義コード・講義名・担当教員名等を記入し、前期・後期の第一回講義時に提出します。

『履修届』 …前期・後期の学期当初に、大学事務局にて配布します。履修科目・講義コード・講義名・担当教員名等を記入し、大学事務局に提出して下さい。
同時に重複する科目を登録したり、年次指定を間違えたりしないように注意して下さい。

◆ 履修登録後の注意

- 1 履修登録後は、登録された科目以外は履修が認められません。
- 2 履修変更（登録変更）は、年間行事予定表を参照し、履修登録変更届期限内に行ってください。それ以外の履修変更は、一切認められません。

◆ 年間制限単位数

1 変動型CAP制度の導入について

本学では学生が学力に応じた十分な学修時間を確保するために、履修登録可能な単位数の上限を、学期ごとの成績（GPA）により上下する制度（変動型CAP制度）を採用しています。

変動型CAP制度とは、前学期のGPAにより、下表に示す履修上限単位数が4段階に変動する制度のことです。この制度を導入する背景には、1，2年次の学生が単位を多く履修して、予習・復習も不十分なまま授業に臨み、どの科目も理解不十分になり、途中で履修を放棄する事例が多く見られたからです。そこで本学ではGPAを基にして、履修可能な単位数の上限（CAP制）を設定することで、学生自身が自らの成績状況を理解し、学修内容に応じて学修時間を確保し、能動的に関わってゆけるように本制度の導入を行っています。

2 変動型CAP制度（履修制限）

ランク	前学期のGPA	履修可能単位数
Sランク	3.5以上	28
Aランク	2.5以上 3.5未満	26
Bランク	1.5以上 2.5未満	24（基準値）
Cランク	1.5未満（履修支援対象者）	18

- (1) 新入生（1年生・編入生）・休学生や病気欠席等のやむを得ない事由により、その学期のすべての授業科目を履修できなかった場合、次学期の上限単位数はGPAと関係なく基準値の24単位となります。
- (2) 長期履修生の履修できる単位の上限は前期18単位・後期18単位です。ただし、資格取得のための単位数については制限がありません。また、卒業論文についても上限数に加えて履修できます。

3 本学の最低履修単位数について

学年	学期	履修可能単位数	最低履修単位数	資格取得のための単位数
第1学年	前期	24 (基準値) 前学期のGPAにより各自異なります。 基準値は24単位となります。	指定しません。	制限なし
	後期			
第2学年	前期			
	後期			
第3学年	前期			
	後期			
第4学年	前期	4単位 (卒業論文を含む)		
	後期			
	※後期に履修可能単位数以外に卒業論文(4単位)を履修することも可能です。			
合計			124単位	
卒業基準単位		124単位	124単位	

4 履修上の学生支援について

- (1) GPAがCランクの場合、アカデミック・アドバイザー及び担当職員による履修支援が行われます。
(上記のGPAの数値に関わらず履修支援が必要と判断した学生も、アカデミック・アドバイザー及び担当職員による履修支援が行われます。)
- (2) 2学期連続してGPAがCランクの場合、アカデミック・アドバイザー、担当職員及び保護者を交えた四者面談が義務づけられます。(特別な履修支援が必要と判断された学生も、アカデミック・アドバイザー、担当職員及び保護者を交えた四者面談が義務づけられます。)

◆ 履修手続き

前期及び後期の履修手続きは下図の通りです。

前期履修手続き方法		後期履修手続き方法	
ガイダンス及びオリエンテーション 〔履修・単位認定・学生生活等〕		講義開始	
↓		↓	
各講義の聴講	履修届の作成	各講義の聴講	履修届の作成
↓	↓	↓	↓
履修カード記入	大学事務局へ提出	履修カード記入	大学事務局へ提出
↓	↓	↓	↓
担当教員へ提出	履修変更手続き	担当教員へ提出	履修変更手続き
↓	↓	↓	↓
前期履修手続き完了		後期履修手続き完了	

◆ 仏教学部教育課程略図

※令和5年度以降は、「介護福祉士国家試験受験資格」「保育士資格」課程は開講されません。

学 部	仏教学部					
学 科	仏教学科					
主専攻	日蓮学専攻		仏教芸術専攻		福祉学専攻	
副専攻	仏教芸術専攻	福祉学専攻	日蓮学専攻	福祉学専攻	日蓮学専攻	仏教芸術専攻
内 容	仏教学、仏教史、日蓮教学、宗門史、日蓮思想、臨床教学法要式等		仏教彫刻、仏教美術、仏像修復、博物館学、仏教音楽等		社会福祉、介護福祉、児童福祉、保育、地域福祉等	
資 格	日蓮宗僧階（権僧都） 中学・高校宗教1種 （平成30年度入学者まで） 高校宗教1種 （平成31年度入学者から） 高校公民1種 学芸員資格 社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事 介護福祉士実務者研修		日蓮宗僧階（権僧都） 中学・高校宗教1種 （平成30年度入学者まで） 高校宗教1種 （平成31年度入学者から） 高校公民1種 学芸員資格 社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事 介護福祉士実務者研修		社会福祉士国家試験受験資格 介護福祉士国家試験受験資格 保育士、日蓮宗僧階（権大講師） 身体障害者福祉司、児童指導員 生活指導員、知的障害者福祉司 学芸員資格 社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事 介護福祉士実務者研修	
就 職 先	寺院、日蓮宗関係の諸機関、各種企業、博物館等 大学院等への進学			特別養護老人ホームや養護老人ホームなど高齢者施設のケアワーカー、老人保健施設や病院施設のケアワーカー、各種社会福祉施設の職員等 保育所の保育士、各種社会福祉施設の職員等		

留意事項

1 福祉学専攻においては、1年次に履修した科目を修得できなかった場合、4年間で卒業できない場合もあり得ますので、計画的に履修してください。

2 資格取得について

(1) 1年次より計画的に履修をしてください。漫然と履修していると資格を取得できないことがありますので、十分に注意してください。

(2) 在学中に、社会福祉士国家試験受験資格科目の実習系科目を修得できなかった場合、卒業後に実習系科目を科目等履修生として修得できます。しかし、他の科目は科目等履修生として修得できず、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができません。

(3) 介護福祉士国家試験受験資格は在学中に全ての科目を修得しないと、介護福祉士国家試験受験資格を得ることができません。（科目等履修生として修得することはできません。）

◆ 単位の認定・学期末試験等について

- 1 履修科目の単位修得の認定は、試験などその科目ごとに指定された方法により行われ、一定の基準以上に達した場合のみ、所定の単位が与えられます。
- 2 全教科とも授業時間数の3分の2以上を出席しなければなりません。これに満たない場合は、学期末試験を受験することができません。
- 3 試験は原則として筆記試験で行われますが、レポート等の方法をもって代えることもあります。
- 4 試験は所定の試験日時及び所定の場所で受けなければなりません。但し、やむを得ない事情によって受験できなかった者に限り、追試験が許可される場合もあります。追試験を受けようとする場合は、定期試験を受験できなかったことを証明する書類を添えて大学所定の日時までに大学事務局に願出しなければなりません。
- 5 レポート等は担当教員の指示する期日までに指定された場所に直接本人が提出しなければなりません。
郵送及び期日に遅れて提出されたものは、受理されません。
- 6 評価及び単位の認定は、原則として学期末に成績通知票の郵送により行います。

◆ 成績の評価制度

1 GPA制度 (Grade Point Average) を導入した、成績の判定を S・A・B・C・D の5段階で行います。

GPA制度の導入について

平成26年度より、修得した科目の評定をS・A・B・Cの4段階で行い、成績を平均化したGPA (Grade Point Average) を全学的に導入しました。これまでの成績評価は、A・B・C・D (不可) の4段階でしたが、これをS・A・B・C・D (不可) の5段階評価に改めます。

従来の4段階評価から5段階評価 (特に従来の「A (優)」を「S (秀)」と「A (優)」に細分化) という、よりきめ細かな成績評価を行うことで、学修の到達度が一層明確になります。

GPA制度は、本来学生自身がそれぞれの学修到達度を質的に把握することにより、学生自身の自覚を促すための指標にすぎないのですが、その状況によっては、大学からの学修指導が行われることとなります。しかし、GPA制度は、成績面から学生にペナルティーを課し、学生を管理することを目的とするわけではなく、学生の勉学の動機付け、励ます制度として導入された制度です。

なお、GPA制度では、単位を修得できなかった不合格科目 (D評価の科目) や未受験科目 (F評価の科目) も成績に加算されます。従って、不合格科目や履修放棄科目が多いとそれだけGPAが低くなり、その意味で学生の勉学への意欲や取り組み方がはっきりと表れます。

また、GPA制度は教育の国際化に対応できる指標であるために、最近日本でもGPA制度と併せて5段階評価を導入する大学が増えていることから、他大学の制度との互換性を高めることにもなります。

2 試験得点に応じて5段階 (4.0、3.0、2.0、1.0、0) の数値【グレード・ポイント (以下「GP」という。)] 設定をします。なお、受講を途中でやめた科目や不合格となった科目はGPが0点となります。

3 各履修科目のGPに、科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で割ったものがGPAとなります。

4 成績評価とGP

評価区分	評定記号と評価内容	付加するGP	旧評価
100~90点	S (秀) : 特に優れた成績である	4	A
89~80点	A (優) : 優れた成績である	3	
79~70点	B (良) : 概ね妥当な成績である	2	B
69~60点	C (可) : 合格に必要な最低限度を満たした成績である	1	C
59~0点	D (不可) : 合格には至らない成績である	0	D
	N : 単位認定科目であり、GPA計算対象外	なし	

(1) GPAの対象となる授業科目

以下に該当する科目を除く、全ての授業科目がGPAの対象となります。

(以下に該当する科目はGPが付加されません。)

- ① 合格か不合格かだけを判定する授業科目
- ② 編入学または転入学した際の単位認定科目
- ③ 本学入学前に修得した単位認定科目
- ④ 他大学との単位互換等で修得した科目
- ⑤ 高大連携の単位認定

(2) 算出方法

算出式は次のとおりです。

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{総履修単位数 (「D (不可)」の単位数を含む)}}$$

(注1) GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとします。

(注2) 「総履修登録単位数」には、不合格科目を再履修し、合格の評価を得た場合及び再履修の

結果再び不合格の評価であった場合、それぞれ再履修前の不合格評価については、通算のGPAには算入しません。

(参考) ある学生のGPA

授業科目名	単位	得点	評価	GP	GP×科目の単位数
哲学	2	92	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
政治学	2	75	B (良)	2.0	2.0×2 = 4.0
自然科学入門	2	35	D (不可)	0.0	0.0×2 = 0.0
倫理学	2	70	B (良)	2.0	2.0×2 = 4.0
健康とスポーツの科学	2	受験不可	D (不可)	0.0	0.0×2 = 0.0
英語A	2	80	A (優)	3.0	3.0×2 = 6.0
介護実習Ⅱ	4	90	S (秀)	4.0	4.0×4 = 16.0
経済学	2	64	C (可)	1.0	1.0×2 = 2.0
心理学	2	84	A (優)	3.0	3.0×2 = 6.0
法学	2	100	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
情報処理入門	2	95	S (秀)	4.0	4.0×2 = 8.0
合計	24				62.0 ポイント

GPA = 2.6 (62.0 ÷ 24 = 2.45...小数点第2位を四捨五入する)

◆ 仏教学科履修表

1 主専攻による履修表【主専攻のみの場合はこちらを参考にしてください。】

(1) 教養科目 (各専攻共通)

区分	分野	履修方法		修得単位数
教養科目	人間探求科目	4 単位以上修得	10 単位以上修得	20 単位以上修得
	社会探求科目	4 単位以上修得		
	情報科目			
	総合科目 「基礎ゼミⅠ」 「基礎ゼミⅡ」 上記以外の科目	1 単位必修 1 単位必修 2 単位以上修得		
	保健体育科目	2 単位以上修得		
	語学科目	同一科目 (A・B) 4 単位以上修得		

(2) 専門基礎科目

区分	専攻	履修方法	備考
専門基礎科目	日蓮学専攻	必修科目を含む、12 単位以上修得	専攻により修得単位数が異なるので留意してください。
	仏教芸術専攻	必修科目を含む、12 単位以上修得	
	福祉学専攻	必修科目を含む、10 科目 18 単位以上修得	

(3) 専門科目

区分	専攻	履修方法	備考
専門科目	日蓮学専攻	日蓮学系科目・仏教学系科目・仏教実践系科目 キャリア系科目・ゼミナール・卒業論文から、 必修科目を含む、92 単位以上修得	専攻により修得単位数が異なるので留意してください。
	仏教芸術専攻	仏教芸術系科目・宗教学系科目・博物館学系科目 キャリア系科目・ゼミナール・卒業論文から 必修科目を含む、92 単位以上修得	
	福祉学専攻	福祉理論系科目・キャリア系科目・ゼミナール・卒業論文から、必修科目を含む、86 単位以上修得	

(4) 教養科目・専門基礎科目・専門科目の合計

専攻	教養科目	専門基礎科目	専門科目	合計
日蓮学専攻	20 単位以上修得	12 単位以上修得	92 単位以上修得	124 単位以上修得
仏教芸術専攻	20 単位以上修得	12 単位以上修得	92 単位以上修得	
福祉学専攻	20 単位以上修得	10 科目 18 単位以上修得	86 単位以上修得	

2 主専攻の他に副専攻を履修した場合の履修表

(1) 教養科目 (各専攻共通) 【主専攻のみ履修した場合と変わりません】

区分	分野	履修方法		修得単位数
教養科目	人間探求科目	4 単位以上修得	10 単位以上修得	20 単位以上修得
	社会探求科目	4 単位以上修得		
	情報科目			
	総合科目 「基礎ゼミⅠ」 「基礎ゼミⅡ」 上記以外の科目	1 単位必修 1 単位必修 2 単位以上修得		
	保健体育科目	2 単位以上修得		
	語学科目	同一科目 (A・B) 4 単位以上修得		

(2) 専門基礎科目 【主専攻のみ履修した場合と変わりません】

区分	専攻	履修方法	備考
専門基礎科目	日蓮学専攻	必修科目を含む、12 単位以上修得	専攻により修得単位が異なるので留意してください。
	仏教芸術専攻	必修科目を含む、12 単位以上修得	
	福祉学専攻	必修科目を含む、10 科目 18 単位以上修得	

(3) 専門科目 【主専攻のみ履修した場合と、大きく変わります。留意して履修してください。】

区分	主専攻		副専攻		合計
	専攻	履修方法	専攻	履修方法	
専門科目	日蓮学専攻	日蓮学系科目 仏教学系科目 仏教実践系科目 キャリア系科目 ゼミナール・卒業論文から 必修科目 62 単位全て修得	日蓮学専攻	日蓮学系科目 仏教学系科目 仏教実践系科目 キャリア系科目から 30 単位以上修得	92 単位
	仏教芸術専攻	仏教芸術系科目 宗教学系科目 博物館学系科目 キャリア系科目 ゼミナール・卒業論文から 必修科目 62 単位全て修得	仏教芸術専攻	仏教芸術系科目 宗教学系科目 博物館学系科目 キャリア系科目から 30 単位以上修得	92 単位
	福祉学専攻	福祉理論系科目 キャリア系科目 ゼミナール・卒業論文から 必修科目を含む 56 単位以上修得	福祉学専攻	福祉理論系科目 キャリア系科目から 30 単位以上修得	86 単位

(4) 教養科目・専門基礎科目・主専攻専門科目・副専攻専門科目の合計

専攻	教養科目	専門基礎科目	主専攻 専門科目	副専攻 専門科目	合計
日蓮学専攻	20単位 以上修得	12単位 以上修得	62単位 以上修得	30単位 以上修得	124単位 以上修得
仏教芸術専攻	20単位 以上修得	12単位 以上修得	62単位 以上修得	30単位 以上修得	
福祉学専攻	20単位 以上修得	10科目18単 位以上修得	56単位 以上修得	30単位 以上修得	

(5) 参考資料 (主専攻のみ履修した場合と、主専攻と副専攻を履修した場合の単位の比較)

専攻	専攻	教養科目	専門基礎科目	主専攻 専門科目	副専攻 専門科目	合計
日蓮学専攻	主専攻	20単位 以上修得	12単位 以上修得	92単位 以上修得	なし	124単位 以上修得
	副専攻			62単位 以上修得	30単位 以上修得	
仏教芸術専攻	主専攻	20単位 以上修得	12単位 以上修得	92単位 以上修得	なし	
	副専攻			62単位 以上修得	30単位 以上修得	
福祉学専攻	主専攻	20単位 以上修得	10科目18単 位以上修得	86単位 以上修得	なし	
	副専攻			56単位 以上修得	30単位 以上修得	